

日常生活の指導学習指導案

知的障害特別支援学級（はばたき学級）

7人（1年男子1人，4年男子2人，4年女子2人，5年女子1人，6年男子1人）

指導者 藤原 志穂美

- 1 題材名 朝の会～できた！おしえてあげるね～
- 2 題材の目標

- 個人のめあて（「今日頑張ること」）を意識して，意欲的に活動することができる。
- 友達に教えたり，友達と助け合ったりして，活動する楽しさや喜びを味わうことができる。
- 自分や友達の頑張りや一緒に活動するよさに気付いたり，互いを認め合ったりすることができる。

3 題材について

(1) 題材設定の理由

本学級では，毎日1校時に「日常生活の指導」の時間を設定し，「朝の会」を位置付けている。朝の会では，衣服の脱衣，洗顔，手洗い，食事，清潔などの基本的な生活習慣の内容や挨拶や言葉遣い，礼儀作法，時間やきまりを守ることなど，集団で生活をする上で必要な内容について繰り返し活動することで身に付けることができるようにしてきた。このような活動に取り組むことで全員が「朝の会」の見通しをもって楽しく活動に参加できるようになり，一日のスケジュールを把握するとともに，期待感をもって，その日の学校生活を過ごすことができるようになってきた。今年度は，新1年生が入級したことにより，上学年の子どもたちにはこれまで以上に自分ができることを教えようとする意欲が高まり，自分から関わっていかうとする姿が見られるようになってきている。しかし，教え方が分からずに戸惑ったり，自分のすべきことがおろそかになってしまったり，相手や周りを考えられずに発言したり，行動したりするところが見られる。

そこで，本題材では，個人のめあてをもって活動することで，意欲をもち，自分のこととして活動に取り組むことができるようにする。そして，友達と教え合ったり，助け合ったりしながら活動を進めていくことで，友達と一緒に活動する楽しさや喜びを分かち合うことができるようにする。さらに，振り返る活動を通して，自分の変容に気付いたり，友達と互いの良さや頑張りや認め合ったりすることで，自分ができるようになったことを実感し，自己肯定感を高め，次の活動へ自信をもって取り組むことができるように，「朝の会」の内容の見直しを行った。

指導に当たっては，まず，各活動に合わせて，子どもに力を付けてほしいポイントが書いてある「のびるカード」（自己評価カード）を活用することで，「朝の会」での個人のめあて（一人で「今日頑張ること」）を決めることができるようにする。また，個人のめあて（みんなで「今日頑張ること」）については，「教える」，「助け合う」のどちらかを選択することによって決めることができるようにする。この二つの個人のめあてを，黒板に明示することで，常に自分のめあてを意識し，達成するためにはどうしたらよいか考え，再確認したり，互いのめあてを意識し合ったりして活動することができるようにする。次に，当番活動やハッピータイムを通して，友達と関わり合いながら，友達に教えたり，互いに助け合ったりする時間を設定する。当番活動では，「手と手カード」を活用することで，子どもたち同士の話し合いを基に，活動する人数や活動内容を決めることができるようにする。また，活動の順序やその活動ができたかチェックできる「手と手ブック」を活用することで，それぞれの活動のゴールを明確にし，友達と一緒に見通しをもって，活動できるようにする。ハッピータイムでは，「見る」，「書く」，「描く」，「音楽」，「数に関する活動」などのこれまで継続して行ってきた活動に加え，季節や行事に関連したものを取り入れた共通の課題を設定することで，個々のもっている力や個性をのびのびと発揮できるようにし，子ども同士が主体的に関わり合いをもちながら学ぶことができるようにするとともに，生活や行事に生かすことができるようにする。さらに，振り返る活動では，「のびるカード」（自己評価カード）や「ありがとうカード」を活用することで，自分のことや友達のことを考え，自分の頑張りや友達のよさに気づき，認め合うことができるようにする。これらは毎日記録することで，次の活動や翌日の「朝の会」への意欲につなげることができるようにする。

このように，「朝の会」の指導を通して，一人一人の意思や気持ちを大切にしながら，集団で共通の活動をしていくことで，自分の役割を果たし，協力して活動できる素地を身に付け，日常生活で生かされていくと考える。また，友達に教えたり，互いに助け合ったりすることで，できることへの自信を深めると共に，相手のことを考えて行動することや他者に対して思いやりのある伝え方ができるようになっていく。友達とコミュニケーションを図りながらやり遂げていく経験を積み重ねていくことで，周りにいる人を大切に生きていくことにつながると考える。

(2) 子どもの実態

児童名	題材に関する実態		
	意思の主張	人との関わり	本単元に関する教育的ニーズ
A児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意思が強く、自分が興味のないことに対してなかなか行動に移すことが難しい。だが、教師や友達と一緒に活動することで楽しく活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人なつっこく、誰とでも仲良く関わることができる。 言葉がはっきりしないため、言いたいことが相手に伝わりにくいことが多いが、一生懸命に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分でできるようになること。 友達と一緒に楽しく活動しようとするができるようになること。 自分の気持ちを相手に伝えることができるようになること。
B児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えややるべきことを言葉掛けすることで、相手の意見に流されずに行動することができる。 自分のこうしたいという思いや気持ちを言葉にして伝えることが難しいので、落ち着いて話すように心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 下学年に対して、面倒見がよく、とても優しく接することができる。 相手の気持ちを考えたり、周りの状況をよく見たりして、行動することができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の行動に自信をもつことができるようになること。 周りのことを考え、友達と仲良く活動することができるようになること。 自分のことは自分でやり遂げることができるようになること。
C児	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考えずに発言することも多いが、事前に相手の気持ちを確認できるように言葉掛けをすることで、少しずつ相手の気持ちを考えた発言ができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲良く関わろうとするため、交流学級での友達も多い。 緊張してしまうと、自分の言いたいことが言えずに、黙ってしまうこともあるため、時間を掛けて気持ちを引き出すことも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のことを考えて活動できるようになること。 自分で決めたことや約束は、最後まで諦めずに取り組むことができるようになること。 時間やきまりを守るができるようになること。
D児	<ul style="list-style-type: none"> 周りに合わせて発言したり行動したりすることが多いため、大人数の中で自分の意思を伝えることが難しい。 特定の相手には、自分の気持ちを言葉にすることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 物静かであるが、友達や教師に自分から話し掛けることができるようになってきた。 特定の友達とよく遊んでいる。自分から進んで下学年の面倒を見たり、優しく声を掛けたりする姿がよく見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって取り組むことができるようになること。 友達に優しく教えることができるようになること。 友達の話最後まで聞くことができるようになること。
E児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを友達に直接伝えることができずに、教師に主張してくることが多い。 時間を掛けて信頼関係を築くことで、教師や友達と会話することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大勢で遊ぶことよりも特定の友達と関わるが多い。親しい相手には、自分から話し掛けたり、冗談を言ったりすることができる。 大勢の輪に入って、学習したり行動したりすることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に自信をもって行動することができるようになること。 友達に自分の思いや気持ちを伝えることができるようになること。 自分のできることを、友達や下学年に教えることができるようになること。
F児	<ul style="list-style-type: none"> 自分に都合が悪いことやしたくないことがあると、ごまかそうとして、思いと反することを発言することがあるため、言葉掛けが必要である。 周りの意見を聞かず、自分の意思を曲げずに主張し続けるところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 物音を立てたり、同じことを繰り返したりするなど、意図的に周りの気を引こうとすることがある。 人なつっこい性格であるが、大勢の前だと緊張してしまうため、側での声掛けや支援をして活動への意欲をつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分でできるようになること。 自分から友達に関わるができるようになること。 友達と一緒に仲良く活動ができるようになること。
G児	<ul style="list-style-type: none"> うまくいかないことがあると、大きな声を出したり、落ち着かなくなったりすることが多い。 自分の言いたいことが言葉にならないことも多いが、気持ちを落ち着かせることで、言葉で伝えることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わりたいという気持ちはあるが伝えるための方法が分からずに行動してしまうことが多いため、トラブルにつながってしまうこともある。 落ち着いて話をすることや言葉掛けをすることで、納得いかない時に関係ない人や物に当たることが、少なくなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達に優しく教えてあげることができるようになること。 自分で決めたことは、最後まで諦めずに取り組むことができるようになること。 友達と一緒に楽しく活動することができるようになること。

4 指導に当たって

(1) 「自分事の問い」をもつための手立ての充実【研究内容1】

- これまでの頑張りが把握できる「のびるファイル」（「のびるカード」を綴ったもの）を活用することで、子どもの実態や伸びに沿った「自分事の問い」を想定することができるようにする。

- 各活動内容に合わせて作成した「のびるカード」(自己評価カード)を活用することで、力を付けて欲しいポイントを示し、その中から個人のめあて(一人で「今日頑張ること」)を設定することができるようにする。また、毎時間、学習の成果を記録していくことで、次時の個人のめあてをもつための参考となるようにする。
- 個人のめあて(みんなで「今日頑張ること」)は、「教える」または「助け合う」のどちらかを選択し、写真カードを黒板に明示することで、個人のめあてへの意識を高めることができるようにする。

(2) 「自分事の問い」を解決につながる「学び合い」の設定【研究内容2】

- 「手と手カード」や「手と手ブック」を活用することで、意図的に子どもたち同士で話し合い、教え合ったり、助け合ったりすることができるようにする。
- 自他のよさを見付け、伝え合ったり認め合ったりする場を設定することで、個人のめあて(「今日頑張ること」)の達成につなげることができるようにする。

(3) 自己の伸びを実感できる評価の在り方【研究内容3】

- 「のびるカード」(自己評価カード)での毎日の積み重ねをグラフ化した「のびるグラフ」を続けていくことで、個人のめあて(「今日頑張ること」)の達成感やこれまでの頑張りを実感することができるようにする。また、友達に評価してもらった「ありがとうカード」で振り返ることで、教え合ったり、助け合ったりできたことに、気づき、自信をもつことができるようにする。

5 指導計画(総時数70時間：2学期)

一次	教師と一緒に参加し、「朝の会」の流れや進め方を知る。
二次	教材・教具の習得とそれらを使用した発表の仕方を知る。
三次	習得したことを活用し、児童が役割を分担しながら朝の会を進行する。
指導のねらいと主な活動内容	
指導の視点	
毎時間の学習活動・内容は、日々同じ流れで行う。	子どもの意識 ～のびるカード～
1 個人のめあて(「今日頑張ること」)を決める。 【指導のねらい】 子ども一人一人が、自分の望ましい姿を目指して、朝の会に参加することができるようにする。 (活動内容)※「のびるファイル」を活用 (1) 一人で「今日頑張ること」みんなで「今日頑張ること」を決める。 (2) 「のびるカード」にめあてを記入する。 (3) めあてを黒板に掲示する。	今日はどんなことを頑張ろうかな。 今日は〇〇ができるように頑張るぞ。
2 朝の会をする。 (1) 始めのあいさつをする。 【指導のねらい】 落ち着いて、気持ちよく朝の会を始めることができるようにする。 (2) 朝のあいさつをする。 【指導のねらい】 気持ちよいあいさつをし、明るい雰囲気を作ることができるようにする。 (3) 朝の歌を歌う。 【指導のねらい】 学級の明るい雰囲気を作ることができるようにする。 (4) 健康観察をする。 【指導のねらい】 自分や友達の健康に興味・関心を持ち、毎日元気に過ごしたいという意識を育てることができるようにする。 (5) 今日の天気を知る。 【指導のねらい】 自分で見て予想し、調べることで一日の気象の様子を知ることができるようにする。	① 姿勢 (「べた・ちょこ・びん」) ② 声 ③ 礼 ④ 表情 ① 姿勢 ② 声の大きさ ③ 礼 ④ 表情 ① 歌声をそろえて ② 指揮 ③ 口の大きさ ④ 言葉(歌詞) ⑤ 友達と仲良く ① 手の挙げ方 ② 返事の仕方 ③ 自分の健康状態の発表の仕方 ④ 表情 ① 外の様子調べ方 ② 予想の立て方

家庭や交流学級との連携

目 標
【家庭】 ○ できたことや取り組んでいる活動が家庭生活の中でも生かされ、実践することができる。
【交流学級】 ○ 友達と助け合うことができる。 ○ 自分が気付いたことを伝えたり、教えてあげたりすることができる。

<p>(6) 今日の日付を読む。 【指導のねらい】 全員で日付を読み、日付の読み方を確認できるようにする。</p>	<p>① 落ち着いて読むこと ② 周りと声をそろえること ③ 元気よく</p>
<p>(7) 時間割を発表する。 【指導のねらい】 一日の流れに見通しをもち、みんなの前で発表できるようにする。</p>	<p>① 姿勢 ② 声の大きさ ③ はきはきと ④ 聞く態度</p>
<p>(8) 当番活動をする。 【指導のねらい】 自分の役割を果たし、友達と協力して活動をする。教え合ったり、助け合ったりできるようにする。</p>	<p>① 友達と仲良く活動すること ② 教えること ③ 助け合うこと ④ 一生懸命活動すること</p>
<p>(9) ハッピータイムをする。 【指導のねらい】 「見る」、「書く」、「描く」、「音楽」、「数に関する活動」や、季節や行事に関連した内容を取り入れ、特に身に付けてほしい力を個別で補充したり、全員で活動したりすることで身に付けていくことができるようにする。</p>	<p>① 友達と楽しく活動すること ② 教えること ③ 助け合うこと ④ 時間を守ること</p>
<p>(10) 振り返りをする。 【指導のねらい】 振り返る時間を設定することで、自分のできたことや変容に気付くことができたり、友達のよさや頑張りを認めたりすることができるようにする。 ア 「のびるカード」に、個人のめあて（「今日がんばること」）についてどうだったか、振り返る。（◎、○、△のいずれかの印をつける。） イ プレゼントタイム（「ありがとうカード」を渡す。） ウ 頑張りボードで活動全体を振り返る。 エ 教師の話聞く。</p>	<p>自分で決めた頑張ることはどうだったかな。 ○○○ができて、すごうれしかったな。 ○○くんが教えてくれたよ。ありがとう。 ○○さんと一緒にできたから、頑張れたよ。</p>
<p>(11) 終わりのあいさつをする。 【指導のねらい】 学習の成果を「のびるファイル」に記録し、子どもが達成感や満足感、期待感をもって、一日をスタートできるようにする。</p>	<p>また次もできるように頑張るぞ。</p>

<p>連 携</p>
<p>【家庭】 ○ 学級通信や連絡帳で、成果や成長を共有できるようにする。 ○ 連絡帳の「まいにちのあしあと」に、その日の頑張りを記録し、子どもの頑張りを伝えることができるようにする。 ○ 家庭での様子やできたことへのコメント、声掛けの協力をもらい、子どもの自信や意欲につなげられるようにする。</p> <p>【交流学級】 ○ 交流学級連絡帳で伝えたり、「のびるカード」を定期的に見せたりすることで、できるようになったことや成長の様子を称賛してもらえるようにする。 ○ 交流学級の友達に自分の気持ちを伝えたり、教えたりすることができるような場を設定することで、子ども同士が関わり合うことができるようにする。</p>

※ハッピータイム（「学び合い」）の活動内容

- (1) 「見る」、「聞く」活動について
 - ・絵本の読み聞かせ ・教育テレビ視聴 ・童話の視聴
- (2) 「書く」活動について
 - ・なぞり書き ・視写 ・教科の学習補充
- (3) 「描く」活動について
 - ・自画像 ・コンクールへの作品制作 ・スケッチブックでの描画（色えんぴつ、クレヨン、絵の具） ・手形アート
- (4) 「音楽」について
 - ・手遊び歌 ・音楽に合わせて歌う ・表現運動 ・ピアノ伴奏 ・リズムあそび
- (5) 「数に関する活動」について
 - ・あわせていくつ。 ・わけるといくつ。
- (6) 季節や行事に関連した活動について

〈例〉宿泊学習

 - ・たたむタイムチャレンジ ・タオルのたたみ方 ・食事の配膳パズル ・洗顔の仕方 ・はみがきレッスン
- (7) 生活につながる活動について
 - ・ぞうきんできれいきれい（こぼれたものをふく） ・片付けレース ・レッツ！皿洗い ・ぞうきんしぼり大会
 - ・たたむきょうそう～いろいろな形～（四角、おしぼりたたみ、三角） ・たたむきょうそう～標準服～ など

6 本 時

(1) 全体目標 友達に教えたり、助け合ったりして活動することができる。

A児	教師と一緒に個人のため（「今日頑張ること」）を考え、友達や教師と一緒に楽しく活動することができる。
B児	自分ができることに自信をもって取り組んだり、友達に優しく教えたりすることができる。
C児	友達のことを考えて声を掛けたり、友達と一緒に活動したりすることができる。
D児	自分から進んで声を掛けて、教えたり、周りに助け合ったりすることができる。
E児	自分のやるべきことだけでなく、活動の様子を見て行動したり、友達にも優しく教えたりすることができる。
F児	友達と一緒に助け合うことで、活動をやり遂げることができる。
G児	自分のやるべきことは責任をもってやり遂げたり、下学年に優しく教えたりすることができる。

個人目標

(2) 展開 ○数字は、「自分の事の違い」に対するしかけ (①教材・教具 ②発問 ③場 ④連携) ☆はICT活用の留意点

過程(分)	主な学習活動	子どもに応じた具体的な手立て
つかむ・見通す (10)	<p>1 個人のめあてをたてる。</p> <p>(1) 一人で「今日頑張ること」を「のびるカード」に書く。</p> <p>困っていたら教「今日は、朝の歌を頑張りたいな。」を頑張りたいな。</p> <p>(2) みんなで「今日頑張ること」を黒板に明示する。</p> <p>2 朝の会をする。</p> <p>(1) 始めのあいさつをする。</p> <p>(2) 朝のあいさつをする。</p> <p>(3) 朝の歌を歌う。</p> <p>(4) 健康観察をする。</p> <p>(5) 今日の天気を知る。</p> <p>(6) 今日の日付を語る。</p> <p>(7) 時間割を発表する。</p> <p>(8) 当番活動をする。【学び合い】</p> <p>(9) ハッピータイムをする。【学び合い】</p> <p>「上手だな。」「いいな。」と思ったりは、友達に聞いたり、教えてもらったりして、みんなで頑張ってみよう。</p> <p>ぼくはこうするとできたよ。〇〇くんみたいにやってみよう。</p> <p>(10) 振り返りする。(プレゼントタイム)</p> <p>【自己評価・相互評価】</p> <p>〇〇くん。ていねいに教えてくれて、ありがとう。</p> <p>みんなと声を揃えて歌えてうれしかった。</p> <p>(11) 終わりのあいさつをする。</p>	<p>②③ 「今日は特に何を頑張りたいかな。」「みんなと仲良く朝の会をするために、「助け合う」のどちらを頑張りたいかな。」と発問することで、個人のめあて（一人で「今日頑張ること」）を考えることができるようにする。</p> <p>③ [A児]「今日頑張ること」は、本人の自信となるものを教師と一緒に考えることで、意欲的に活動することができるようにする。</p> <p>④ これまでの頑張りが分かる「のびるファイル」を振り返ることで、活動への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>① 個人のめあては、黒板に明示することで、自分が決めためあてを最後まで意識して取り組むことができるようにする。</p> <p>③ [C児] 周りの子どもの動きに気付かせることで、自分のことだけでなく、友達のことでも考えられるようにする。</p> <p>② 「今日はどんなあいさつができるかな。」「どんな歌声が聞けるかな。」等、個人のめあてに沿った発問をすることで、「今日頑張ること」に気を付けて活動することができるようにする。</p> <p>☆ 天気を調べる際には、電子黒板のインターネットを活用することで、情報を全体で共有することができるようにする。</p> <p>② [E児] 一緒にすることでやり遂げられる活動内容を進めたり、ペア（グループ）を設定したりすることで、友達のことを考えることができるようにする。</p> <p>③ [G児] 意図的に下学年に教えられる場面を設定することで、友達と関わって活動したり、下学年に教えたりすることができるようにする。</p> <p>② 「手と手カード」を活用することで、子ども同士の話し合いを基に、活動する人数や活動内容を決めることができるようにする。</p> <p>③ [D・F児] 活動が終わっていない友達や困っている友達に気付かせることで、友達に進んで声を掛け、一緒に活動することができるようにする。また、一緒に活動することでやり遂げられる、子どもや活動内容を進めることで、各活動に最後まで取り組むことができるようにする。</p> <p>② 「〇〇くんが一緒にしてくれて助かったよ。ありがとう。」「助け合って上手にできたね。」「〇〇さんに教えてもらえてよかったね。」等の言葉掛けをすることで、教えるたい気持ちや助け合って活動する気持ちを高めることができるようにする。</p> <p>① 当番活動をする際には、活動の順序やその活動ができたかをチェックできる「手と手ブック」を活用することで、一つ一つの活動に見通しをもったり、活動のゴールを明確に把握したりすることができるようにする。</p> <p>② [B児] 友達に教えることができたことに気付かせることで、自分の取り組みに自信をもって活動することができるようにする。</p> <p>② ハッピータイムでは、共通の課題を設定することで、子ども同士で教え合ったり、助け合ったりして活動ができるようにする。</p> <p>① 頑張りがボードで、活動したことを振り返ることで、自分や友達の頑張りを認めることができるようにする。</p> <p>② プレゼントタイムでは、「ありがとうカード」をお互いに渡し合うことで、友達が教えてくれたことや一緒に活動してくれたことよきに気付くことができるようにする。</p> <p>④ できたことや成果を称賛することで、「やってみよう」という意欲を高めることができるようにする。</p>
活動する (23)		
振り返る (12)		